『架ける』　“さいきょう会ねっとわーく”　第4号　Vol.4　1999.6

写真：多摩川中流域の橋を巡る見学会・府中四谷橋

田島先生の思い出

1999年5月1日、先生とゆかりの深い本四連絡橋尾道・今治ルートが開通しました。このルートは、私の田舎である四国今治と本州尾道を結ぶものです。この時期に先生の思い出を書くことは、感慨深いものがあります。

先生と私の出会いは、確か大学3年の時の溶接工学の講義でした。卒業研究は縁あって(抽選でした)先生の元で、本四公団委託研究のすみ肉溶接の疲労強度でした。その後、先生の勧めもあって橋梁メーカーに入社、14期押尾君たちとさいきょう会を発足し、先生に顧問をお願いしました。又、同期の白子君が先生に仲人をして頂いた事もあって、何回か先生のお宅へお邪魔した折りには、海外の橋梁の写真を見せて頂きました。先生が退官後事務所を開かれた場所は、偶然私の事務所と道を挟んで真正面でした。

幾つかの偶然と必然が重なり合って先生の思い出となっています。先生は橋造りに文化と実利の哲学を持っておられました。ここに先生のご冥福をお祈り申し上げます。

（第15期　越智　知仁）

いなコンの主張

静岡にUターンして早8年目になります。サクラダに10年間在籍し，広島の一件を経て故郷静岡に帰り，いまだに橋を設計しています。したがって，さいきょう会には，新幹線で駆けつけています。

この新幹線というのは，田舎者が中央に出向くという意識を持たせます。さいきょう会の多くの方々は，私のような田舎コンサル（略して，いなコン）の役どころをご存じでしょうか。この場を借りて，紹介したいと思います。

弊社の営業品目には，測量，設計，補償，地質調査があります。補償とは例えば，道路の建設に伴い，個人の住宅・敷地が用地として必要な場合，その補償額を算定します。設計には道路，河川，公園から鋼橋まであり，分野に注文は付けられません。場合によっては，積算や発注図面の色塗りまでやらされます。どちらかといえば，鋼橋の設計より，これらの手伝い仕事が多いのが現実でしょうか。

このような環境の中で，孤軍奮闘，大手さんには負けじと，橋梁上・下部工の設計で会社の看板片手に，がんばっております。最後に一言，『静岡は俺の縄張りだ～ット』

（第14期　押尾　泰寿）

私の近況

入社して早々3年目となり、仕事に対する考えや姿勢も少しずつ変えていかなくてはと思うことが多くなりました。今日では、与えられた仕事を単にこなしていくことで精一杯だった自分自身に対し、何か変わらなくてはという危機感を抱いております。当面の目標として、周りに対して自分の意見をぶつけ、圧力をかけられるようにならなくてはと感じています。

さて先ごろ、富山県に私が1年目の時に設計に携わった橋長20m程のプレテンションPC単純T桁橋が出来上がったということを聞き、当時の苦労が思い出されました。私が関わった橋で最初に出来上がった橋ということで、なんだか不思議な気持ちと不安な気持ちが入り交じっています。これまでは、さいきょう会での現場見学を始め様々な橋を見る機会がありましたが、自分が関わった橋を見ることはなく、今後のためにも是非見に行こうと考えております。

これから、多くの橋と出会っていくうちのまだ出発点ではありますが、今の時期を大切にもっと勉強していきたいと思います。（第29期　山口　卓哉）

田島先生との思い出

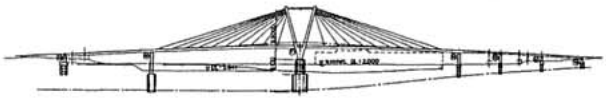
「先生、本社構造技術課へ転勤になりますので、今度は霞ヶ関で食事をしましょう。」と新宿のＮＳビルで昼食をとったのが、元気な先生との最後となってしまいました。先生との思い出で一番印象深いのは橋梁視察旅行です。西は名古屋から北は山形まで様々な橋梁を見に行きましたが、最後の旅行となったのは、北陸新幹線や上信越道見学で長野へ行った時でした。旧信越線のめがね橋の保存会で、長野へ行くので、一緒に橋を見に行こうと声をかけてもらった時はとてもうれしく、仕事をさぼっていった記憶があります。第二千曲川橋や屋代南橋、上田ローマン橋などを見学し、小諸の懐古園では、先生が委員長をされていた跨線橋のデザインについていろいろ教えて頂きました。帰りの特急あさまでは、当時生ビールを車内販売しており、ちゃんと歩けなくなるまで二人で飲んだことが、つい昨日のように思い出されます。いまや、特急あさまも新幹線開通に伴い廃止され、また、田島先生から、直接教えを乞う事もできなくなりました。先生から教わった、「橋の美」について、自分なりに努力し、いつでも「先生だったらこうするかな」と思い出しながら、橋梁設計に携わっていきたいと思います。

（第21期　青木　圭一）

田島二郎先生のやり残した仕事

Bridge Adviser田島二郎のやり残した仕事に、福井県九頭竜川河口に計画されているV型主塔を有する鋼斜張橋、福井テクノポート大橋（仮称）がある。この橋は、田島橋梁構造研究所設立後に田島先生が景観・技術検討委員会の委員長をやられた橋です。そして、埼玉大学卒業時に、何時か一緒に仕事をしましょうという、田島先生と私の約束が実現した唯一の橋である。

生前、田島先生は設計を担当したコンサルタントに、「私が図面をチェックし、印鑑を押した図面でなければ製作に入ることは許さない」と言っていたそうです。残念ながら、この橋は、いろいろな事情で工事がストップしています。九頭竜川河口に、V型主塔を有する鋼斜張橋がその姿を現わすのは何時の日かまだわかりません　（第14期　矢部　正明）



土木学会第50回年次学術講演会（H7.9）より抜粋

時悠人、時遊人、時憂人

少し前の話であるが、肩書きに「時悠人」と入れた我が親父殿の名刺を作った。5～6年前に仕事を辞め、傍目にも見事な転身？で、若かりし頃に趣味としていた写真を再度始めた。それも富士山を三峠側からしか撮らないというスタイルにこだわり、毎月のようにせっせと一人通っている。もうひとつ新たな趣味として、見よう見まねで菊作りを始め、今では近所のみなさんの評判になっているようだ。実は、名刺には肩書きの他に、生涯趣味として、「富士山写真撮影と菊作り」なる言葉を名前の下に入れている。昭和ひと桁生まれの頑固な人である。その頑固者が、なんと優雅な趣味に没頭し嬉々として活きていることか、との思いから「時を悠々と活きる人」と肩書きに付したのである。もうひとり、気になる人がいる。我が息子である。彼は、まさに「いつなん時も遊びに没頭する人、“時遊人”」である。こちらは平成ひと桁生まれで、遊びへのこだわり方が板についており、親父の頑固なところがなぜか隔世遺伝？しているようである。翻って我が身を思うと、どうも日々「時に急がされ憂えている人、“時憂人”」というのがピッタリくる。“悠”と“遊“を目の当たりし、羨ましくも感じる日々ではあるが、せめて「勇気を奮い立たせ可能性を切り開く“自勇人”であれ」、と我が身に言い聞かせている次第である。

（第16期　森　敦）

めがね橋（碓氷第三橋梁）

橋供養の石碑（碓氷峠麓、中山道の坂本宿）

碓氷峠の「めがね橋」

田島先生から直接ご指導戴いたのは、この「さいきょう会」を通じてである。幹事会の会合では、時々新富町にあった田島橋梁構造研究所におじゃました。皆がつどっての会話を好まれ、快く場所を提供してくれた。その上、いつも上等のブランデーと温かいピザが用意されている。

さいきょう会の持ち方や講演の話題、見学先など貴重なアドバイスをいただいた。特に、東京下町の橋梁群を船で巡る計画では、関連パンフレットの入手や資料の提供をいただき、大変お骨折りを戴いた記憶がある。

見学会ではいつもカメラを肩にしていた先生のオフィスには、多くの写真が飾ってあった。写真を見る楽しみとその想い出話をお伺いできる楽しみが重なっている。なかでも、確か旅先で撮影された霧に包まれたグレートベルト橋のムードのある作品、ライトアップした碓氷峠の「めがね橋」が、印象に残っている。

ふと思い立ち、「めがね橋」の写真を撮りに、新緑の碓氷峠へハイキングに出かけた。私にとって、先生の優しさを思い出す作品になるにちがいない。

合掌！　（第2期　森田　哲士）

自然の逆襲

思えばそれは去年の秋。その当時の私の現場は四国の山の中、愛媛と徳島と香川の県境に位置することから、人呼んで「境い目」。その谷間に、高速道路のPCラーメン橋を作っていました。地上60m、自然が沢山残っている風向明媚なところです。

ある朝、クレーンが動かなかった。いや動かなくされていた。70mのクレーンは、地上50mの位置で何者かによって、安全装置の電線をずたずたに切られていました。こんな山奥で、あんな高い場所を…。その日から、現場では、犯人探しが始まった。犯人は、現場に恨みを抱くものか…地元民？それとも鳶さん？

ある朝、点検のためクレーンに登ると、犯人は、切った電線と小枝の上で眠っていました。そうそこにいたのは、ムササビ。クレーンの上に巣を作っていたのでした。気の毒でしたが、工事進行のためクレーンの上から強制立ち退きをしてもらいました。他のクレーンが立ち並ぶ他の現場に…。これは、ムササビの高速道路建設反対の抗議行動だったのでしょうか？　（第25期　山口　統央）

木曽川・揖斐川橋の近況

ＪＨ四日市工事事務所の施工管理員として木曽・揖斐川橋にたずさわり、早や２年が経過しました。

木曽・揖斐川橋は、第２名神高速道路が木曽川・揖斐川の河口部を横過するところに架かる、橋長１kmを超えるＰＣ・鋼複合連続ｴｸｽﾄﾗﾄﾞｰｽﾞﾄﾞ橋であります。

ＰＣ桁部はﾌﾟﾚｷｬｽﾄｾｸﾞﾒﾝﾄ工法とし、架橋現場から約15km離れたﾔｰﾄﾞで製作したｾｸﾞﾒﾝﾄを台船で運搬して架設します。鋼桁部は径間中央に死荷重軽減を目的として用いられており、約100mの鋼床版箱桁を製作工場から海上運搬して一括吊上げ架設します。

１個のｾｸﾞﾒﾝﾄの大きさは総幅員が33m、長さが5m、桁高が４～7mであり、製作当初はその大きさに圧倒されましたが、現在ｽﾄｯｸﾔｰﾄﾞに並べられている約50個のｾｸﾞﾒﾝﾄを見ると、目が慣れたせいかさほど大きいと感じなくなりました。

架橋現場は昨年末に柱頭部ｾｸﾞﾒﾝﾄの架設が、またＧＷ前に主塔が完成し、いよいよｾｸﾞﾒﾝﾄの架設が本格的に始まります。

来年に見学会が予定されていますが、工程では７月頃だと終盤にさしかかったｾｸﾞﾒﾝﾄ架設と、鋼桁大ﾌﾞﾛｯｸの一括架設が行われているでしょう。

（第20期　小西　俊之）

自己本位な話

現在、横浜の地で道路の管理業務に就いている。ここで感じる事は「多い」と言う事である。交通量が多い。日合計46万台の車が通行する。事故が多い。日平均4件の事故が発生している。苦情が多い。苦情件数を数えた事は無いが、毎日13名の助役の誰かは苦情の処理にあたっている。

事故、苦情の様態を見ていて、共通するキーワードは「自己本位」である。

最近私も道路管理者と言う事で緊急の呼び出し用にと携帯電話を持たされているが、この携帯電話の使用でも「自己本位」が如実に示されている。満員電車の中で、馬鹿でかい声での通話は迷惑極まりない。他人の下らない（当人にしてみれば下らなく無いのだろうが）話を聞かされるのは耐え難い。いらいらしてくる。「車内での携帯電話の使用は御控え下さい。」との放送はあるが、電話をする輩にはそんなものは馬耳東風である。言葉で駄目なら物理的手段に訴えるしか解決策は無かろう。電車内に限らず公共の場では電波シールドしてしまい、電話が使えない様にするしかない。皆さんのご意見は如何に？

（第8期　佐藤　孝）

写　真　解　説

表題：多摩川中流域の橋を巡る見学会・府中四谷橋

表紙は、会員の皆様もご存知の通り、一昨年の見学会の集合写真です。見学した橋は、上流側から「是政橋」、「府中四谷橋」、「多摩川原橋」、「多摩水道橋」でした。毎年、年が明けると今年の会合をどうしようかと、田島先生、会長、幹事一同が集まるわけですが、この見学会の発端は、今年のよい見学場所はありませんかとの問いに、先生から今年が「多摩川中流域の橋」の見頃との助言をいただき、実現したというわけです。先生自身も景観の委員会等で関わられていたとのことで、「多摩川原橋」では、先生から直接ご説明をいただきました。現地では完成後で橋面に上がることができず、堤防からあるいは河原に降りて下から眺めることしかできませんでしたが、私自身も大変印象に残っております。

これから、1年余りの間に先生が御病気で亡くなられ、先生との最後の見学会になるとは、この時の元気なご様子からは誰もが想像できなかったと思います。田島二郎先生、これからも私たちのさいきょう会を天国から見守っていてください。

（第17期　赤尾　圭二）

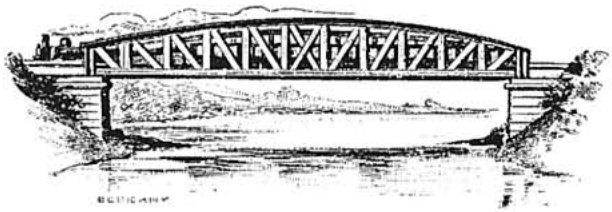
橋梁を取囲む環境の変化に対応して

3年前、さいきょう会の会報を創刊するに当り、故田島先生が「かける」という言葉を題材に語られていたことを思い出しました。今思えば私達に期待を掛けられていることだったのかも知れません。

メンバーの一人として、これからのさいきょう会は橋梁関係して興味のある方を広く募る必要を感じています。最近の技術的な特徴の一つとして、複合構造や混合構造が有ります。これは従来のメタル屋とかＰＣ屋という分けでは対応が出来るものでなく、相互の協力により新しい技術が確立できるものでと思います。又、下部構造を支える基礎工関係者も欠かすことが出来ない訳です。景観設計をされている方が多いと思いますが、遠くから眺めるだけでなく、都市部では生活環境の一部と捉えるてみると、積極的にデザインする必要があります。デザイナーにも門戸を開くべきではないでしょうか。

会員各自のネットワークから広く参加を呼びかけ、会を発展させようでは有りませんか。

（第4期　関口　武一）



事務局からのお知らせ

田島先生が存命中在籍されておりました、旧国鉄、本四公団、埼玉大学等が中心となって、田島二郎氏追悼文集「田島二郎さんの想い出」（仮称）の刊行を平成12年3月に予定しております。

先生の業績に各方面から募った想い出などの文章を加えて、一冊6,000円程度となる予定です。

所属される法人にも購入の依頼があると思いますが、さいきょう会の会員の皆様方にも、是非1冊購入いただければと思います。

御購入のご案内については、追ってお知らせいたしますので、ご協力お願いいたします。

また、会の運営費用節約のため、会合の際にさいきょう会の詳細な名簿は配布しておりませんが、必要な方は赤尾まで連絡いただければ、メールないし郵送で配布いたします。　（第17期　赤尾　圭二）

事務局代表
栗本鐵工所　橋梁設計部
東京設計課　赤尾　圭二
TEL 03-3436-8311 FAX 03-3436-8135
E-Mail k_akao@kurimoto.co.jp

無断転載を禁じます。　9906200